

第4回 長岡市立地適正化計画策定委員会

第3回策定委員会においていただいた
ご意見・ご提案への対応

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
誘導施策 (居住)	1	<p>P11に、「依然として新築ニーズが高い」とあり、「新築ニーズが高い＝空き家がなくなり新築に変わる」ならば耐震や水害対策が改善されるので良いが、これを確認するには、建物ごと、世帯ごとの把握が必要である。</p> <p>危険性を取り除くための取組や考え方をまちなか居住区域で可能な限り結びつけるべきで、そのような指標についても考えてもらいたい。</p>	<p>ご指摘の主旨は理解した。具体的にどここの場所での新築ニーズが多いかについては、市街化区域を拡大したところで多くなるとわかっているものの、詳細については把握しきれていない。</p> <p>今後の課題として、どのように進めていくか検討したい。</p>
	2	<p>A3資料の「2 本市計画の概要(5)本計画における都市づくりの方向性」で、「歩いて暮らせる生活環境」とは、資料に出てきていないように思う。</p> <p>居住や都市機能といった書きぶりがあるのではないか。</p>	<p>なぜ都市機能や居住を集約していくかという、車偏重型の都市構造を是正し、持続可能なまちづくりを進めていくためである。現行計画においてもそうしたストーリーになっており、続けていく。</p>
	3	<p>P13に「居住を誘導するための施策」として、「危険箇所への支援」という記述がある一方、A3資料の「5 施策のあり方」には「危険箇所からの移転支援」という表現がある。</p> <p>「危険箇所への支援」とは、移転支援のことか、そこに建っている建物に対する構造的な支援なのか。</p> <p>移転支援ならば、「危険箇所への支援」と誤解されない記載に修正すべきと思う。</p>	<p>現時点では、第2回策定委員会資料でもお示しさせていただいたが、移転を中心に考えている。</p> <p>しかし、具体的な取組を増やす検討を進めていく中で、構造的な支援へも踏み込めるか改めて検討したい。</p>

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
誘導施策 (都市機能)	4	P16「行財政の状況」の2つ目の項目で、突然、公共建築物が出てくるが、いわゆる社会基盤施設、上下水道や道路等のインフラはどこで言及されているのか。	<p>行財政運営プランは、公共建築物だけでなく、インフラ全般、人件費も含む長岡市の行財政に係る全てが内包された内容になっている。</p> <p>公共建築物については、都市機能の一翼を担っており、立地適正化計画で計画的に整備や保全を進めていく必要があるという認識のもと、外だしをしている。</p> <p>他のインフラについては、都市計画マスタープランにて全市的に安全安心なまちづくりを進める中で取り組むとしている。</p>
	5	<p>今後も機能の増加を図るとしながらも、厳しい財政運営が続くことを示すなどあえてネガティブ情報として、行財政を記載する意味があるのかわからない。</p> <p>「公民連携による都市機能誘導」等、もう少しポジティブな書き方で補足情報を入れる方がよいのではないか。</p>	<p>現行計画にも財政状況の記述があったが、長岡市の行財政プランの内容に差し替えたこともあり、厳しい書き方になっている。</p> <p>ご指摘のとおり、機能の維持の中で公民連携という言葉を使っている箇所もあるので、ポジティブな表現については考えたい。</p>
	6	「住み慣れた地域に住み続けられるよう」の解釈について、立地適正化計画の「集約」の考え方と整合しないように感じる。	集約化については主に都市機能を想定しており、居住については、今住んでいる地域に住むという選択肢を残して進めていきたい。

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
誘導施策 (公共交通)	7	「公共交通」では、バスのみを念頭にしているように感じる。中山間部を中心としているデマンドタクシー等を記載してはどうか。	P22の「地域生活交通等」にてデマンド型の乗り合いタクシー等について記載している。 表現については再度検討したい。
災害リスク分析・ 評価	8	P37、P38の分析について、被害の割合を面積だけで表しているが、人口を加味すると、だいぶ印象が違うと思う。	人口については、ハザードに重ねる情報として、マクロ分析の中でまとめている。(第2回策定委員会資料で掲載) 資料後半で、確率をかけてリスクとして示しているが、人口もリスク算出式に含まれている。情報の出し方については、別に整理していきたい。
	9	確率規模で分ける水害までを含めて、「ハザード毎」と呼ぶのがふさわしいのか疑問である。	わかりやすい表現を検討したい。 「想定されるハザード」に表現を修正する。

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
災害リスクの分析・ 評価	10	<p>住宅の床面積で人口を按分する手法について、人口や世帯数を求めるのであれば、単純に面で与えていた人口を点で表し、それを再び面に置き換える方法でも良いと思う。</p> <p>一方で、65歳以上や単身の方といった条件を加える場合、データとして正しい数値として良いか。</p> <p>65歳以上の方が、同質均一に住んでいるわけではない。住民基本台帳のデータを活用する等も考えてもらいたい。</p>	<p>人的被害については、水害のように避難率40パーセント等ある程度割り切った条件の中で推計値として求めている。</p> <p>推計値ではなく確定値で整理できるものについては、分析手法も検討したいが、今回はまず現在のとりまとめ方法で検討を進めたい。</p>
災害リスクの分析・ 評価 (情報の示し方)	11	<p>「リスク」と「ハザード」という言葉について、一般市民への公表を考えた時に、意図するとおりに理解されるか疑念を持った。</p> <p>他の言葉での言い換えも難しいことから、「定義」的なものを差し込んでどうか。</p>	<p>「ハザード」と「リスク」を混在して理解されるという懸念がある。</p> <p>「定義」を加え、正しく理解してもらえるよう、丁寧に説明していきたい。</p>

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
災害リスクの分析・ 評価 (情報の示し方)	12	<p>これだけ詳細な空間分析をして、この結果を住民の方が見た時にどういった影響を与えるか考えた。</p> <p>住民の方は、どのリスクが最も卓越しているかに高い関心がある。</p> <p>直感と合致する情報を示すことは有益であるが、一方で詳細な情報がすべて公開されると、地域防災を進める人たち、地域活動に携わる人たちに不十分な説明のまま伝わってしまうのではという懸念がある。</p>	<p>長岡市の独自案で評価したもので、長岡市内での相対的なリスクである。全国的なルールに基づいたものではなく、限られたルールの中で工夫して評価できないかということで分析している。</p> <p>間違った捉え方をされないよう、どこまで情報を出すかについては検討させていただく。</p> <p>また、地域防災計画等の関連計画とリスク情報を共有し、活用していきたい。</p>
	13	<p>分析の背景あるいは前提としている条件の複雑さに比べて、出てくるアウトプットがすごくわかりやすいので、そこが非常に難しいところではないかと思う。</p>	
	14	<p>目的に合わせてメッシュ幅を決めたと思うが、メッシュ幅を広げて棒グラフの見え方を変える等も検討してもらいたい。</p>	<p>マクロ的な視点及びミクロ的な視点でまとめた棒グラフの図を2Dの表現に変えて示す等、柔らかな表現を考えていきたい。</p>

第3回策定委員会においていただいたご意見・ご提案への対応

カテゴリ	No	意見要旨	対応方針 (委員会時の答弁に追加部分を朱書き)
災害リスクの分析・ 評価 (情報の示し方)	15	P78のリスク分析のまとめのような資料を出す時は、統合的なものだけではなく細かいものも参考資料として出すことや、ハザードマップを作るときには適切に情報提供していくことが大事だと思う。	長岡市で想定されるハザードについて今回できる限りお示ししたが、実際にはまだ把握できていないハザードもある。 また、P82以降の評価指標について、「安全性が高い」としているが、表現を含めて検討している。
災害リスクの分析・ 評価 (施策展開)	16	分析結果に基づき、施策に濃淡が付けられるか、まちなか居住区域全域で展開することにならないか心配である。 施策に結び付けることは可能か。	施策に結びつけることについて、本計画は長岡市としての計画だが、リスクを共有し、国、県の河川整備等も盛り込んでいく。 また、市の内部でも、現在の施策が正しいかについて確認し、まちづくりとして新たに打ち出すべきものが見えればと考えている。
	17	計画で決定したことを具体的な施策にどう反映していくかについて、今後は調整の際に、立地適正化計画で示す具体的な災害リスクを参考として、各個別計画で具体的な施策をとりまとめることになると思う。 各個別計画に本計画が反映できることから、長岡市全体として具体的な施策につながると感じている。	今回解析したリスクを見ながら、特に注目するところを選択して施策を判断することになると考えている。 市内部の関係課が20課あり、策定委員会前にも課長会議等を行い、情報共有することで施策に反映していきたい。